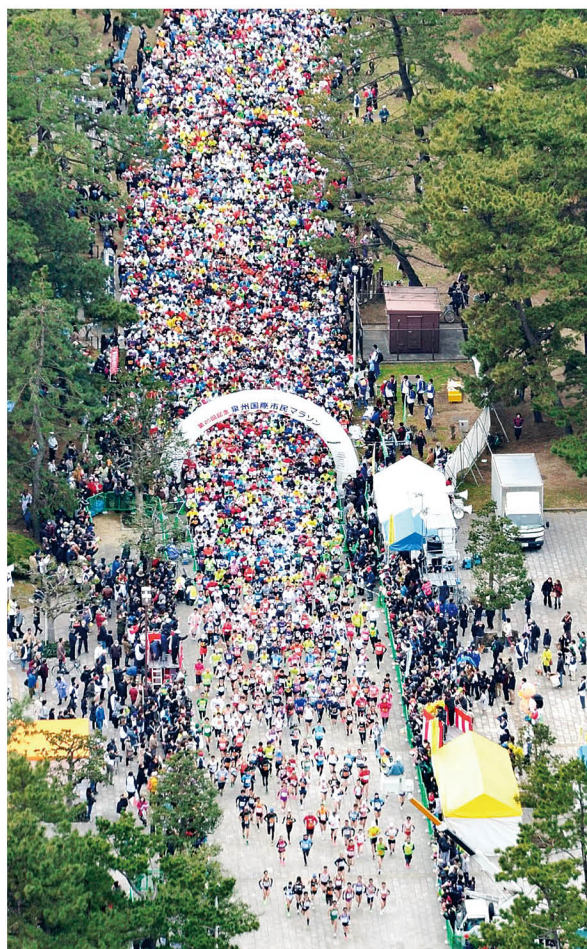


泉州国際市民マラソン 第20回大会 2013年(平成25年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 20th CONVENTIONS



天候曇り、気温6℃、湿度35%、北東の風0.2mというマラソン大会では良好のコースコンディションのもと、20回を記念した泉州国際市民マラソンが華々しく開催された。20年の節目を迎え日本の市民マラソンとして有数の成人した大会となった。昨年と同様に募集人数4000人とし、制限時間を5時間としたメモリアルイベントであったが、全国から集まった市民ランナー4768人が9名の招待選手や34名の姉妹・友好都市の外国人選手と一緒に浜寺公園をスタート、りんくう公園高架下のゴールに向かって健脚を競った。完走者は4083人、5時間の制限時間が設けられている大会としての完走率は85.6%の高い数値を示した。

男子優勝は、前半から飛び出した丸林祐樹(トエネック)が2時間22分25秒で昨年に続きV2を達成した。第2位の小寺晃弘(フリーマックス)に5分26秒差をつけた、まさに一人旅の優勝であった。25km付近までは昨年の優勝記録をしのぐ2時

2月17日 日

天候：曇り
気温：6℃
参加者数：4768人
完走者数：4083人
沿道人数：26万人



間10分台のペースであったが、このコースの名物となった19mの高低差のある《四橋越え》に苦しみ、目標の20分突破はならなかった。「後半の海沿いの寒い風がこたえたが、沿道の応援が後押ししてくれた」とインタビューに答えた。

女子優勝は、4度目のフルマラソンとなった猪野祐貴(ノーリツ)が2時間38分54秒のベストタイムで快走した。一昨年の18回大会で田中千洋に逆転された悔しい思いを払拭する初優勝であった。4連覇がかかった田中は後半持ち前の粘りを見せ追い込んだが及ばなかった。猪野祐貴は大阪マラソン3位の実績があるが、泉州のタフネスなコースで終始トップを走り、4分近い自己記録更新の快挙であった。「スタートからゴールまでの途切れない声援がうれしかった」と初優勝の喜びを語った。

今回は、マラソンレースと平行して、よしもとのお笑いタレントによるリレーマラソン(駅伝6区)が観衆の人気を博し、フィニッシュ会場では親子ランニング大会も行われ、200組の親子が楽しんだ。20周年を記念するイベントとして泉州9市4町の物産展をはじめ、泉州のゆるキャラ16体が大集合の他、大抽選会やじゃんけん大会、どっきり賞など吉本興業のタレントの出演ステージが披露された。会場には漫才盛り上げ隊として多くの芸人が活躍した。

前日のレセプションでは、ホテル・アゴーラリージェンシー堺において、連続出場の完走者への表彰をはじめ、功労者、協力団体、協賛企業などの感謝状贈呈を行い、アースマラソンを成し遂げた間寛平氏の1時間に及ぶ記念講演が式典を盛り上げた。

尚、20周年記念として今回のマラソンを、制作日本ケーブルテレビ連盟近畿支部、J:COM関西、テレビ岸和田及びラジオきしわだの協力によって初めて実況中継が行われた。20年目の歴史的な企画・取り組みであり、いつまでも「記憶に残る大会」となった。

ランナー

Runner



一斉にスタートするランナー



先導白バイに続く先頭集団



めざすは 42km 先のフィニッシュだ



浜寺公園駅前を力走するランナー



後続ランナーとすれ違う丸林選手



写真コンクール
出展作品：阿児 信夫



写真コンクール 出展作品：安富 予志雄

泉州国際市民マラソンに寄せて

堺市長 竹山 修身



泉州国際市民マラソンが20周年を迎えられ、盛大に開催されましたことを、心よりお慶び申し上げます。

「泉州はひとつ」を合言葉にはじめられた本大会は、今や南大阪地域を代表するマラソン大会に発展しました。これもひとえに大勢の運営スタッフや地域ボランティアの皆様方のご尽力、そして何よりも、絶えず沿道から声援を送ってくださる地域住民の皆様方のご支援の賜物であります。

また、市内「浜寺公園」をスタート地点とし、これまでに5万人以上ものランナーが、早春の泉

州路を駆け抜けてこられた歴史は、本市にとっても貴重な財産です。

本市では、だれもが「いつでも」、「どこでも」、「いつまでも」スポーツに親しむことができる環境を提供し、スポーツを通じて明るく元気で活力あるまち「スポーツタウン・堺」の実現をめざしています。

今後も地域スポーツの推進をはじめ、様々な施策の展開により、本大会の趣旨である、泉州地域の活性化・国際化に、より一層貢献していく所存です。

結びにあたりまして、本大会の益々の発展と関係者の皆様方のご活躍を祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



ボランティア
Volunteer



泉州国際マラソンに寄せる言葉

岬町長 田代 堯



泉州国際市民マラソンが、第20回記念大会を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。

さて、今年で20回目を迎える泉州国際市民マラソンは、泉州地域はもとより、全国各地から3,000名を超えるランナーの皆様が参加する泉州地域を代表する冬のスポーツイベントとして、全国に知られる大会となりました。この間、泉州国際市民マラソンの発展のため、ご尽力を重ねられた実行委員会の皆様方、関係者の皆様方の熱意と努力に対し、心から敬意を表します。

本町では、「温かみのある町政」を念頭に「子育て・教育環境の充実」や「安全・安心のまちづ

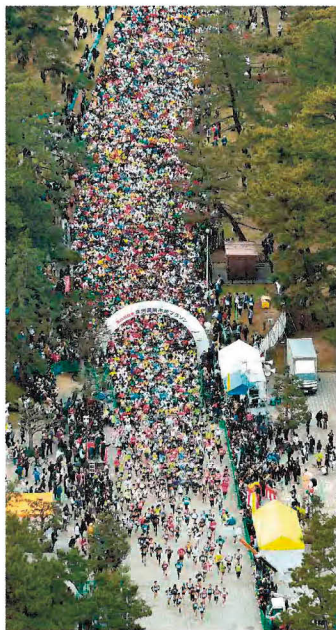
くり」などの各種施策を実施し、住民の皆様との協働によって町内各地域の「まちの価値」を高める取組を進めております。

このような状況の中、自由時間の増大や高齢化の進展に伴い、体力づくりや健康づくりに対する関心が高まりを見せ、その中でも、特別な道具や場所が必要なく、時間を気にせず手軽にできるスポーツとしてジョギングやマラソンの人気が高まっています。そのような折、泉州国際市民マラソンが開催されることは意義深く、大きな期待と関心が寄せられています。今後も多くのランナーから親しまれる大会として、泉州地域の活性化に寄与されるよう期待しております。

最後に、泉州国際市民マラソンの益々のご発展と、関係者の皆様方のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げて、私のお祝いの言葉といたします。

最多4768人 早春ラン

2013年(平成25年)2月18日付朝刊



一斉にスタートするランナーたち(堺市西区の荻寺公園で、本社ヘリから)

泉州マラソン

連続完走、闘病…自分に挑戦

昨年、続々、東日本大震災のオカリナ大会として開催。午前10時30分、午後1時30分、午後4時30分、午後7時30分の4回、延べ42,195人のランナーが参加した。今年も、この大会を通して、仲間と力を合わせて走る。仲間と力を合わせて走る。仲間と力を合わせて走る。

沿道26万人熱いエール

■力走コースに飛び出した。昨午、続々、東日本大震災のオカリナ大会として開催。午前10時30分、午後1時30分、午後4時30分、午後7時30分の4回、延べ42,195人のランナーが参加した。今年も、この大会を通して、仲間と力を合わせて走る。仲間と力を合わせて走る。仲間と力を合わせて走る。



連続出場・連続完走の記録を更新し、仲間と応援される坂根さん(右端)(泉佐野市で)

だんじり囃子 元気吹き込む



だんじり囃子(岸和田市)

ゆるキャラ お出迎え



ゴール地点に集合したキャラクター(泉佐野市で)



スタート地点でランナーを励ますオール阪神さん(左から2人目)、間寛平さん(同3人目)ら

間寛平さんら盛り上げ役。記念大会として、お笑いタレントも、リレーマラソンに参戦。間寛平さん(33)と、地元・東大阪出身のオール阪神さん、スタート地点でランナーを激励。間寛平さんは、ランナーを励ますオール阪神さん(左から2人目)、間寛平さん(同3人目)ら

記念式典 Commemorative Ceremony 2月16日(土): 於ホテル・アゴーラリージェンシー堺



レセプション
Reception



